

マルチクライアント方式

調査企画書

[2020年版 MFPマーケット総覧]

新日常社会へ挑戦する 事務機業界の底力

=日米事務機業界の再編と急伸する中国メーカーとの提携拡大=

2020年11月



日・中・米・欧の市場調査

株式会社 データ・サプライ

〈調査概要〉

I. 調査テーマ

[2020年版 MFPマーケット総覧]
『新日常社会へ挑戦する事務機業界の底力』

＝日米事務機業界の再編と急伸する中国メーカーとの提携拡大＝

II. 調査主旨

2020年は新型コロナウイルスの世界的な蔓延により事務機業界は一変した。これまで経験したことのない社会の到来であり、**オフィスの働き方の変容により、事務機の収益構造は根底から崩れた**。2020年は月を追うごとに景気回復が期待され、春より秋口にかけて回復の傾向が出ているが、予想以上に回復の足取りは重い。市場の回復には、少なくとも、2021年初頭に新型コロナ用のワクチン投与の開始、これに伴う感染の収束が前提となっている。2020年11月現在、新型コロナウイルスの収束が見えない中で、経済活動の再開にブレーキがかかっている。

これまで、日本の事務機業界が市場を牽引してきたが、市場が飽和状態になるのに伴い、米国のHPやXeroxの低迷や日本メーカーの減速により、業界全体の方向性が模索されてきた。こうした状況の中で、**新型コロナウイルスの発生は業界再編をさらに加速させる要因となっている。すでに一部のメーカーはオフィス市場からの縮小を発表した**。そして、急進する中国メーカーとの販売協力やOEM販売も続々発表され始めている。

課題はいくつかある。ハードについては、すでにメーカー数が過剰であるとの指摘があり、OEM供給など自社投資の削減がすすんでいる。**国内メーカー同士だけでなく、PPC(複写機・複合機)やPP(プロダクションプリンタ)の中国メーカーへの供給が急激に増加している。あと2-3年もすれば、中国メーカーがオリジナルのPPC(複写機・複合機)を作るのではないかと心配する声もあがっている**ほどである。販売台数が一時的に減っても市場でのMIF(設置台数)は簡単には減らない。従って、**上位メーカーほどユーザーの数は多く、守りも堅い**ので簡単に市場シェアは変わらない。しかし、徐々にマイナスの効果は出てくる。**今後10年先の事務機事業が健全であるためには、今から設備投資の削減に向けた戦略、つまりOEMの拡大、トナーなど消耗品の共同開発か購入など、さらには、スキャナーの有料化など、新しいソリューションの提案が必須である**。また、これに伴う人員の削減なども時間をかけながら戦略を組み立てる必要がある。

一方、プロダクションプリンタ市場は、オフィス向け高速機と競合する低価格カラー機が上市されるなど市場は拡大してきたが、今後インクジェット機との競合もあり、必ずしも成長のみが続く業界ではない。

こうした状況の中で、30回目にあたる本レポートは各メーカーの事業戦略の変化と将来像を総合的に調査・分析しようとするものである。

ハードウェアの調査対象スピードレンジ

① PC (1～10 ppm)
② セグメント1 (11～20)
③ セグメント2 (21～30)
④ セグメント3 (31～40)
⑤ セグメント4 (41～69)
⑥ セグメント5 (70～90)
⑦ セグメント6 (91～)

調査対象地域分類

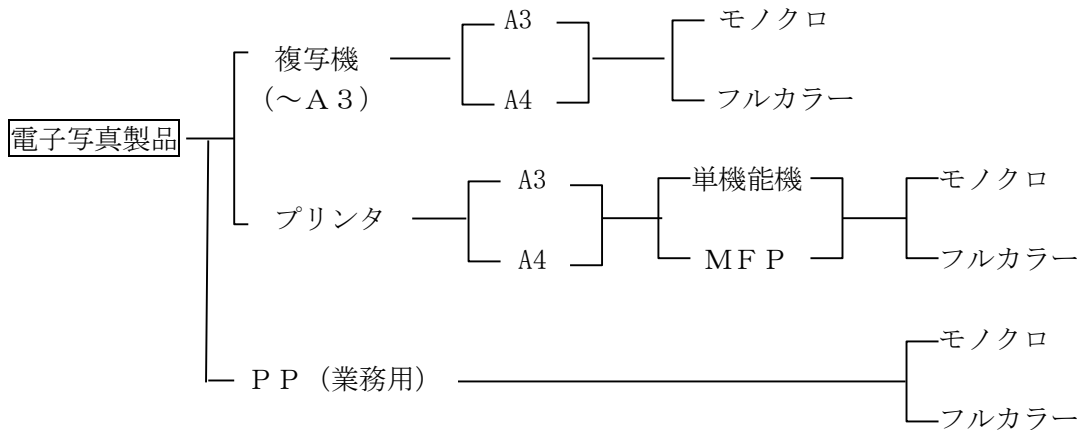
日本
北米
欧州
中国
その他

カラーはモノクロのスピードで分類。

ハードウェアの出荷台数の調査範囲

1. エンジンメーカーとしての出荷台数
 - 1) エンジンメーカーとしての出荷台数 (自社ブランド/OEM 供給)
 - 2) OEM を受けている分のお荷台数
2. 主要プリンタベンダー別出荷台数

Ⅲ. 調査対象品目



注)今レポートから、「FAX 市場」は調査対象から除外する。

IV. 調査対象先

1. 主要メーカー（ベンダー）
 - 1) 複写機メーカー・ベンダー
キヤノン、リコー、富士ゼロックス、ゼロックスコーポレーション、シャープ、東芝テック、京セラドキュメントソリューションズ、コニカミノルタ、HP（HPPK）、その他
 - 2) プリンタ（レーザー／LED）メーカー・ベンダー
キヤノン、HP（HPPK）、富士ゼロックス、ゼロックスコーポレーション、コニカミノルタ、沖データ、ブラザー工業、京セラドキュメントソリューションズ、リコー、レックスマーク、セイコーエプソン、NEC、富士通、シンド(韓国)、パンタム(中国)、レノボ(中国)、デリ(中国)、他
 - 3) PP（プロ向け）メーカー・ベンダー
キヤノン（オセ）、リコー、富士ゼロックス、ゼロックスコーポレーション、コニカミノルタ、HP、他
2. 関連メーカー・ベンダー
 - 1) OEM先メーカー
 - 2) 主要ディーラー（ベンダー）
 - 3) 部品・材料メーカー
 - 4) その他関連取引先

V. 調査対象期間及び対象範囲

1. 対象期間
2018年～2019年実績、2020年見込～2023年予測
2. 調査対象範囲
対象範囲は日本を含め全世界（北米、欧州、中国、その他）

VI. 調査方法

1. 取材対象メーカーへの直接訪問面接調査
2. 公開されている文献、資料、統計等の分析及び調査
3. 弊社に蓄積されているデータの活用

VII. 調査形態、調査期間、他

1. 調査形態
本調査はマルチクライアント方式による調査である。
2. 調査期間
2020年10月～2020年12月
3. 調査報告書刊行日
2020年12月23日
4. 提出報告書
A4判簡易製本/PDF

5. 1社当りの参加費用

¥600,000- (消費税は別途) (フルレポート/2019年版 807頁)

1) 総合分析編/PPC (複写機・複合機) 市場編

¥350,000- (2019年版: 268頁)

2) オフィス向けプリンタ市場編/プロダクションプリンタ市場編

¥350,000- (2019年版: 345頁)

※機種一覧 (2019年版: 182頁)

※刊行前の注文は10%オフ。申込時に半金、報告書完成時に残金を請求させていただきます。
尚、日、支払日はクライアント様の規定に準じます。

6. 調査担当者

山本幸男、吉田晃介、針生正史

(Tel:03-3831-9201、Fax:03-3831-9204、

E-mail: yamamoto@datasupply.jp/yoshida@datasupply.jp/

hariu@datasupply.jp)

(ホームページ: <http://www.datasupply.jp/>)

7. 申込方法

上記の担当者宛に申込書をFAXかE-mailでお送り下さい。

調査のポイント

HP と米・ゼロックスの最新動向

主力メーカーが苦戦する PPC(複写機・複合機)市場

中国メーカーの台頭で激変するプリンタの世界市場

活発化・複雑化する OEM 供給

日本メーカーと急拡大する中国メーカーとの提携

ついに動き出した業界再編

生き残るメーカー?

中国メーカーの PPC (複写機・複合機)生産はいつ?

VIII. 調査項目

A. 総集計編

◀複写機・プリンタメーカーの買収・協業・OEM/EMS関係最新図▶

日本・米国・中国・韓国

1. 生産動向（2019年、2023年）
 - 1) 複写機・複合機
 - 2) レーザー／LEDプリンタ・複合機
 - 3) 生産拠点の変化
2. 出荷動向（2018年～2023年）
 - 1) 複写機・複合機
 - 2) レーザー／LEDプリンタ・複合機
 - 2-1. 詳細地域（日本、北米、欧州、中国、他）別スピード別出荷動向の変化
 - 2-2. 出力サイズ別（A3/A4）複合機別（複合機、単機能）メーカー別地域別出荷台数
3. モノクロ・カラー別ハードとノンハードの売上高比率（現状と今後）
4. 新型コロナウイルスの影響と2021年以降の対策
 - 1) ハードのコスト削減
 - 2) ハードの共同・協業
 - 3) トナーなど消耗品の協業
 - 4) 新しい販売方針
5. 中国製品及びブランド（レックスマーク、パンタム、レノボ、デリ、その他）の出荷動向とOEM関係
6. スピード別複合機（複写機、プリンタ）の出荷台数比較
7. レーザー機とLED機の出荷台数比較
8. オフィス向けインクジェット機（A3/A4）による影響
9. ネットワーク及びモバイル対応機の比率（モノクロ／カラー）
10. 自社ブランド（自社エンジン、OEM受分）とOEM供給戦略及びEMSの変化
11. 中国メーカーとの競争とか共存
 13. プリンタの主要ベンダー別シェアの変化
 14. モノクロの出力枚数とカラーの出力枚数の増減
 15. 商品開発動向
 16. 販売（ルート）
複写機・複合機における直販比率と主要ディーラー名（日・米・欧・中国）の変化

B. レーザー方式別市場（複写機・複合機市場、プリンタ・複合機市場、プロダクションプリンタ市場）

I. 集計分析編

I-1. オフィス向け機器市場

1. 国内外拠点別生産動向（2019年、2023年）
生産拠点の分散化
2. 出荷動向（2018年～2023年）
 - 1) 色別地域別出荷動向の変化（2019年実績、2020年見込）
日本／北米／欧州／中国／他
 - 2) スピードセグメント別メーカー別地域別出荷動向の変化（台数、金額）
(1) 全体 (2) MFP（モノクロ、カラー） (3) 単機能機（モノクロ、カラー）
 - 3) 出力サイズ別メーカー別地域別出荷台数
 - 4) LED機の出荷動向と今後の動向
3. 新型コロナウイルスの影響と2021年以降の対策
 - 1) ハードのコスト削減
 - 2) ハードの共同・協業
 - 3) トナーなど消耗品の協業
 - 4) 新しい販売方針
4. オフィス向けインクジェット機による影響
5. モノクロ・カラー別ハードとノンハードの売上高比率（現状と今後）
6. 中国製品及びブランド（レックスマーク、パンタム、レノボ、デリ、その他）の出荷動向とOEM関係
7. ネットワーク及びモバイル対応機の比率（モノクロ／カラー）
8. 自社ブランド（自社エンジン、OEM受分）とOEM供給戦略及びEMS
9. 買収・協業など関係図

- 10. 中国メーカーとの競争と共存
- 11. スピード別のOEMとEMS戦略の変化
- 12. 主要ベンダー別シェア（プリンタ、複写機・複合機）
- 13. モノクロの出力枚数とカラーの出力枚数の増減
- 14. 商品開発動向（今後の新機種、海外での開発、環境対応他）
- 15. 販売（ルート）（直、販社、ディーラー、量販、通販、ネット）の変化
複写機・複合機における日・米・欧・中国での直販比率と地域別主要ディーラー名

I-2. プロダクションプリンタ市場

- 1. 国内外のメーカー別出荷台数（2018年～2023年）
 - 1) 全体
 - ①モノクロ ②カラー
 - 2) 個別メーカー動向
 - 3) 新規製品動向
- 2. メーカー別機種別出荷台数の変化
 - 1) ライトプロダクション 2) ミッドプロダクション 3) ヘビープロダクション
 - 4) カンプ・プルーフ機
- 3. 機種別ラインアップ
 - ①機種種別特徴（色数、用途） ②主要スペック ③発売時期 ④価格

II. メーカー個票（複写機メーカー、レーザー/LEDプリンタメーカー、プロダクションプリンタメーカー）

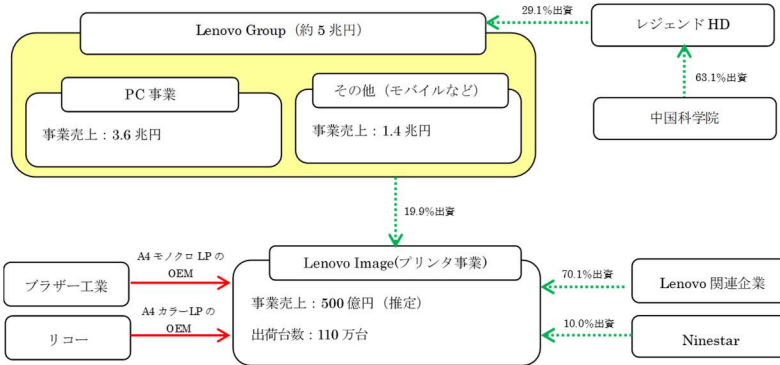
- 1. 色別地域別出荷動向の変化（2019年実績、2020年見込）
日本／北米／欧州／中国／他
- 2. 国内外拠点別生産動向の変化（2019年、2023年）
- 3. 生産拠点の変化
- 4. モノクロ・カラー別ハードとノンハードの売上高比率（現状と今後）
- 5. 出荷動向の推移（2018年～2023年）
 - 1) スピードセグメント別地域別の変化（北米、欧州、日本、中国、その他）出荷動向（台数、金額）
(1) 全体 (2) 複合機（MF P）（モノクロ、カラー） (3) 単機能機（モノクロ、カラー）
 - 2) 出力サイズ別地域別出荷台数の変化
(1) 全体 (2) 複合機（MF P）（モノクロ、カラー） (3) 単機能機（モノクロ、カラー）
 - 3) LED機の全体台数比率と今後
- 6. 新型コロナウイルスの影響と2021年以降の対策
 - 1) ハードのコスト削減 2) ハードの共同・協業
 - 3) トナーなど消耗品の協業 4) 新しい販売方針
- 7. オフィス向けインクジェット機による影響
- 8. 主要機種別販売台数(2019年実績)
- 9. 自社ブランド（自社エンジン、OEM受分）とOEM供給戦略及びEMSの変化
- 10. 買収・協業など関係図
- 11. 中国製品及びブランド（レックスマーク、パンタム、レノボ、デリ、OEM先）の
出荷動向とOEM関係
- 12. 中国メーカーとの競争と共存
- 13. モノクロの出力枚数とカラーの出力枚数の増減
- 14. 商品開発動向（今後の新機種、海外での開発、環境対応他）
- 15. 販売（ルート）（直、販社、ディーラー、量販、通販、ネット）の変化
複写機・複合機における日・米・欧・中国での直販比率と地域別主要ディーラー名

III. モノクロ・カラー機種一覧（2015年～2020年）

スピード別複写機・複合機／プリンタ・複合機／プロダクションプリンティング製品

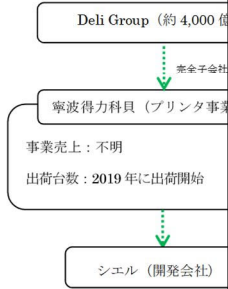
< サンプルページ 2 >

【13】Lenovo



Lenovoはその70%近くが公開株となっているが、実質的には政府機関の中国科学院が間接所有する政府系企業である。プリンタビジネスは1993年にスタート。現在では年100万台以上の販売力を持つ中国有数のプリンタベンダー。OEM調達していたが、2017年にプリンタ(深圳市)を設立し、自社エンジンの開発を本心が予想され、ブラザーなどのOEM

【14】Deli



Deliは1988年に創業した中国の文具販売のほか、法人向けのネット販売ビジネス製造を手掛ける寧波得力科貝技術有限公司スタートした。同年10月にはキヤノンと一時的な位置付けとなりつつある。

< サンプルページ 1 >

(1) 北米の出荷台数

		2017年		2018年		2019年(見込)		2020年(予測)		2021年(予測)		2022年(予測)	
			%		%		%		%		%		%
A4	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
A3	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
総合計	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	

(2) 欧州の出荷台数

		2017年		2018年		2019年(見込)		2020年(予測)		2021年(予測)		2022年(予測)	
			%		%		%		%		%		%
A4	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
A3	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
総合計	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	

(3) 中国の出荷台数

		2017年		2018年		2019年(見込)		2020年(予測)		2021年(予測)		2022年(予測)	
			%		%		%		%		%		%
A4	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
A3	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
総合計	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	

(4) その他地域の出荷台数

		2017年		2018年		2019年(見込)		2020年(予測)		2021年(予測)		2022年(予測)	
			%		%		%		%		%		%
A4	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
A3	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	
総合計	MFP												
	単機能												
	合計												
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比	

<サンプルページ 4>

D-2. 個別動向

[1] 富士ゼロックス

1. カラー機の機種別国内外出荷状況

1) 出荷台数

年		2017年		2018年		2019年(見込)		2020年(子測)		2021年(子測)		2022年(子測)	
			%		%		%		%		%		%
1450GA (カンフ)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
Versant 180 Press/ DC7171P/ C60/C70 (7/1)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
iGen 4/ iGen 150 Press/ iGen 5 150 Press (へビー)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
Color 1000i Press/ 800 Press/ Versant 3100/ Iridesse Production Press(ミッド)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
合計	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												

2) 出荷金額

年		2017年		2018年		2019年(見込)		2020年(子測)		2021年(子測)		2022年(子測)	
			%		%		%		%		%		%
1450GA (カンフ)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
Versant 180 Press/ DC7171P/ C60/C70 (7/1)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
iGen 4/ iGen 150 Press/ iGen 5 150 Press (へビー)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
Color 1000i Press/ 800 Press/ Versant 3100/ Iridesse Production Press(ミッド)	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												
合計	国内												
	海外												
	合計												
	対前年比												

- ①1450GAは、その高画質を武器に、デ
- ②プロダクション機は、全般に減少傾向
- ③ライトプロダクション機は、2018年は前
- ④ミッドプロダクション機は国内外ともに
- ⑤へビープロダクションは、2018年以降
- ⑥ハードとノンハードの比率は各々、35

<サンプルページ 3>

(2) OEM受
なし。

2) 自社ブランド (自社エンジン、OEM受) と OEM 供給の販売台数

(1) モノクロ

自社ブランドと他社ブランド

		2018年		2019年	
		台数	%	台数	%
自社 ブランド	自社エンジン	4,299,300		4,044,000	
	OEM受	0		0	
	計	4,299,300		4,044,000	
他社 ブランド	自社エンジン	1,238,000		1,056,200	
	OEM受	0		0	
合計		5,537,300		5,100,200	

上記の内訳 (2018年)

	社名	台数		
OEM受自社ブランド	なし	なし		
自社エンジンの他社ブランド (全てA4)	Lenovo (A4/30ppm、40ppm) (中国)	300,000		
	Lenovo (A4・MFP/20~30ppm) (中国)	700,000		
	合計	1,000,000		
	富士ゼロックス (中国)	SFP	30,000	140,000
		MFP	110,000	
	(その他地域)	SFP	5,000	10,000
		MFP	5,000	
	合計	SFP	35,000	150,000
		MFP	115,000	
		NEC(日本/SFP)	5,000	
		東芝テック(中国/MFP)	50,000	
コニカミノルタ (中国)	SFP	3,000		
	MFP	30,000		
合計		33,000		
計		1,238,000		

* MFPマーケット総覧 既刊案内 *

刊行日	タイトル	価格	頁数
1992.2	「電子写真方式製品の市場現状と将来予測」	¥150,000	126 頁
1993.2	「電子写真製品の速度別出力サイズ別市場の成長力分析」	¥400,000	350 頁
1994.4	「'94 高成長を続ける電子写真製品の機能別市場の将来性分析」	¥400,000	350 頁
1995.3	「'95 複合化、カラー化が進行する電子写真製品の将来性分析」	¥400,000	350 頁
1996.5	「'96 ネットワーク化を強める電子写真の将来性分析」	¥450,000	520 頁
1997.10	「'97 新市場形成へ向かうレーザー／LEDプリンタ、ファクシミリの市場動向と将来分析」	¥300,000	271 頁
1997.11	「デジタル化、ネットワーク化で新局面を迎えた複写機の現状と将来分析」	¥200,000	262 頁
1999.2	「'99 付加価値を高めるレーザー／LEDプリンタ、ファクシミリの市場現状と将来分析」	¥300,000	252 頁
1999.4	「デジタル化により変革を遂げた複写機市場の現状と将来展望」	¥250,000	422 頁
2000.5	「機能別間競争が激化する電子写真製品の市場現状と将来展望 －ハード市場編－」	¥300,000	656 頁
2000.9	「MFP市場総合分析レポート－国内MFP市場編－」	¥300,000	248 頁
2001.12	「急成長するMFP(複合機)市場の総合分析と影響力評価」	¥600,000	955 頁
2003.7	「カラー化が急進するMFP(複合機)市場の将来動向」	¥600,000	974 頁
2004.12	「激変する全MFP(複合機)市場(PPC、プリンタ、FAX)の将来性分析」	¥600,000	930 頁
2005.12	「全MFP(複合機)市場とオフィスユーザー調査」	¥600,000	927 頁
2006.12	「低価格化競争時代のMFP(複合機)市場とユーザー調査」	¥600,000	876 頁
2007.12	「撤退と参入が相次ぐMFP(複合機)市場の展望」	¥600,000	810 頁
2008.12	「市場縮小傾向を乗り越えるMFP(複合機)市場の展望」	¥600,000	844 頁
2009.12	「シェアが急変するMFP(複合機)市場の戦略分析」	¥600,000	826 頁
2010.12	「優劣が顕著化するMFP(複合機)市場の展望」	¥600,000	806 頁
2011.12	「淘汰の時代に入ってきたMFP(複合機)市場の将来性」	¥600,000	833 頁
2012.12	「市場中心主義の開発が進むMFP(複合機)市場の将来性」	¥600,000	839 頁
2013.12	「ローカル開発が加速する電子写真出力機器市場の展望」	¥600,000	880 頁
2014.12	「持続する電子写真市場の将来性分析」	¥600,000	871 頁
2015.12	「ノンハードを強化するMFP戦略の総合分析」	¥600,000	843 頁
2016.12	「業界再編の嵐に遭遇するメーカーの将来展望」	¥600,000	845 頁
2017.12	「選択と集中が加速する事務機業界の将来図」	¥600,000	757 頁
2018.12	「存在感を増す中国ブランドと事務機業界のゆくえ」	¥600,000	727 頁
2019.12	「成熟市場に挑戦し続ける事務機業界の展望」	¥600,000	807 頁

株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

（刊行日・価格の変更があります）

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F
 TEL：03（3831）9201、FAX：03（3831）9204
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2020年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

	日本語版		英語版		部数	金額
	価格 (消費税別)	刊行日	価格 (消費税別)	刊行日		
《定期刊行物》						
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート（1986年～） 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	日 英	年 月号より ヶ月/年
《2020年/2021年刊行予定物》						
* 2020年版[感光体マーケット総覧] (292頁) 『新たな中国市場戦略が求められる感光体業界のゆくえ』	¥500,000	2/26	\$5,200	4/17	日 英	
* 2020年版緊急レポート（コロナショックと業界大規模再編） 『業界再編とコロナショックに揺れる事務機業界の 地域別メーカー別分析』 (240頁)	¥300,000	4/24	\$3,000	6/19	日 英	
* 2020年版[ローラー系部品マーケット総覧] (651頁) 『要素技術で生き残る部品業界の行方』	¥400,000	5/26	\$4,000	11/30 予定	日 英	
* 2020年版[トナーマーケット総覧] (582頁) 『事務機の中核を占めるトナー事業の将来性』	¥600,000	7/28	\$6,000	10/23	日 英	
(新レポート) * 2020年版[MIFマーケット総覧] (501頁) 『オフィス向け電子写真製品の設置台数とトナー量に関する長期予測』	¥400,000	9/28	\$4,000	12/25 予定	日 英	
* 2020年版[インクジェット印刷マーケット総覧] 『ポストコロナ時代に市場拡大が期待される 産業用インクジェット業界の最新動向』	¥500,000	11/26 予定	\$5,000	2021.2/26 予定	日 英	
* 2020年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) 『新日常社会へ挑戦する事務機業界の底力』	¥600,000	12/23 予定	—	—		
総合分析編・PPC市場編/ プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	¥350,000/ ¥350,000		—			
ニューレポート * 2021年版『出力機器関連機材ハンドブック』	¥200,000	2021.1/28 予定	—	—		
《2019年刊行物》						
* 2019年版[感光体マーケット総覧] (300頁) 『中国が日本を追い越す感光体業界の実情』	¥500,000	2/22	\$5,200	4/12	日 英	
* 2019年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (314頁) 『中国・アジアが牽引する産業用インクジェット市場の最新動向』	¥500,000	3/28	\$5,000	6/17	日 英	
* 2019年版[ローラー系部品マーケット総覧] (657頁) 『戦略転換が急務のローラー系部品業界』	¥400,000	6/26	\$4,000	8/22	日 英	
* 2019年版[トナーマーケット総覧] (591頁) 『事業の健全性が問われるトナー業界の将来性』	¥600,000	8/27	\$6,000	10/18	日 英	
* 2019年版[サプライチェーンマーケット総覧] (315頁) 『激変する事務機業界のサプライチェーン』	¥200,000	11/14	\$2,000	2020年 1/17	日 英	
* 2019年版[MFPマーケット総覧] (807頁) 『成熟市場に挑戦し続ける事務機業界の展望』	¥600,000 (フルレポート)	12/12	—	—		
総合分析編・PPC市場編/ プリンタ・プロダクションプリンタ・FAX市場編	¥350,000/ ¥350,000		—			
《その他の刊行物》						
* 2014年版[企業便覧シリーズ] (128頁) 『中国の機能性部品ローカル企業100社便覧』	¥150,000	2014年 9/29	\$1,500	2014年 10/31	日 英	
* 2013年版[オフィスユーザー調査] 分析編 (810頁)、写真データ (535頁) 『インドにおける500社の複写機・LBP等の写真付ユーザー実態調査』	¥800,000	2013年 9/25	—	—		